

# 学校だより

Vol.

# 120

2026年5月発行  
(2025.10~2026.4)

**最終号**

## Contents

- 02 専攻科修了式・本科卒業式告辞
- 04 祝 卒業・修了
- 14 卒業生・修了生の進路
- 15 学生会
- 16 磐陽祭2025を開催  
インキュベーションルーム開設記念イベント
- 17 TOPICS
- 20 学生の活躍
- 22 コンテスト表彰
- 25 退職者挨拶
- 27 学校だよりはSNS発信へと進化します！
- 29 新任教職員紹介
- 30 入学式 校長式辞
- 31 入学式 代表挨拶



独立行政法人国立高等専門学校機構

**福島工業高等専門学校**

National Institute of Technology (KOSEN), Fukushima College



## 第21回専攻科修了証書授与式 第60回卒業証書授与式 告辞



福島工業高等専門学校  
校長

岡本任弘

卒業生・修了生の皆さん、卒業・修了おめでとうございます。

暦の上では春を迎えましたが、なお寒さの残る日々が続いております。そのような中、本日ここに、ご家族の皆様とともにこの晴れの日を迎えられましたことを、心より嬉しく思います。これまで深い愛情をもって皆さんを支えてこられたご家族の皆様、敬意を表しますとともに、心よりお祝い申し上げます。

皆さんがこれから漕ぎ出す社会は、AIの急速な発展や不安定な国際情勢の中で、

人々の生活や産業の構造が大きく変わりつつある激動の時代にあります。先行きが不透明で、正解が一つではない時代とも言えます。しかし、だからこそ、本校で培った「自ら手を動かし、技術で課題を解決する力」が、皆さんの大きな武器となります。不確実な時代である一方で、技術者にとっては可能性が大きく広がる時代でもあります。

相対性理論で知られる物理学者アルベルト・アインシュタインは、「困難の中にこそ、機会がある」という言葉を残しました。社会課題の多くは、解決が困難である一方、技術者にとって新たな価値創造の出発点でもあります。皆さんが高専で培った実践力は、まさにその機会を形にする力です。実験や実習、研究、課外活動を通して、皆さんは机上の知識にとどまらず、現実の課題に向き合う力を養ってきました。正解



のない時代だからこそ、皆さんには自らの意志と力で、未来の新たな答えを生み出してほしいと思います。

皆さんの新たな門出にあたり、はなむけとして三つのことを申し上げます。

第一に、技術の先に人がいることを忘れないこと。

アップルのCEOであるティム・クックは、「テクノロジーそのものには、何かを成し遂げようとする意志はない。意志を吹き込むのは私たち人間だ」という趣旨の言葉を述べています。自らの専門を、人々の暮らしや社会の発展のために生かすことを考え続けてください。技術は、人のために使われてこそ意味を持ちます。

第二に、学び続けること。

今日皆さんは、技術者、社会人としての第一歩を踏み出します。しかし、技術革新の速度は加速しています。学びをやめない

姿勢こそが、長く第一線で活躍する力となります。

第三に、仲間を大切にすること。

一人で成し遂げられることには限界があります。高専で出会った仲間、そしてこれから出会う人々とのつながりを大切にしてください。

皆さんは、今日という日を何もせずに迎えたわけではありません。この卒業・修了という証を手にするまでに、多くの努力を重ねてきたはずです。そのことを誇りに思ってください。そして、自分の能力と可能性を信じてください。不確実な時代の中でも、より良い未来を創り出す力が、皆さんにはあります。

皆さんのこれからの人生が、希望に満ち、実り豊かなものとなることを心より祈念し、告辞といたします。



## 反面教師として

5年担任 野田 幸 矢

皆様ご卒業おめでとうございます。私のクラスでこの文章を読む人はほほいないと思うので、私自身が書きたいことを述べます。一人の人間として私の主張したいことは「自分の行いたいことを忘れずに！」です。これから仕事などに追われ忙殺されることが多くなるでしょう。私自身令和7年度に関してはけた違いに仕事量が増大し、特に4月頃の記憶が吹き飛びました。ただ、それゆえアニメFate Zero第19話の中の台詞「…何をしたいかを考えずに、何をすべきかだけで動くようになったらね、そんなのはただの機械、ただの現象だ。人の生き方とは程遠い。…」が身に沁みます。「自分の行いたいこと」を喪失したゆえ、無駄な会議・不毛な議論に終始し、メンタルを病む例を私はこれまで見てきました。そうしたことにならないためにも、この文章を読むほど無駄なことはありません。読み終えたら、「自分の行いたいこと」に取り組みましょう。

## 高専という内省の場の中で

5年 笠 間 一 希

4月、私はコロナ禍でこれからの学校生活に不安を抱きながら、この学校に入学しました。

この5年間を振り返ると、コロナの影響で遠隔授業が中心となり、学校生活の実感が薄かった1年生。試験の採点基準によって自分の成績に不安を抱いた2年生。教室と制服に寂しさを抱いた3年生でした。

ですが、1～3年次は部活動の弓道部に精一杯取り組んだことに加え、部活動の仲間と過ごしたことで成長することができました。

創作と試験に心血を注いだ4年生。進路と卒業研究に追われた5年生。たくさんの思い出をつくることができたクラスメイトとともに卒業を迎えられることを、非常に光栄に思います。

最後に、担任してくださった根本昌樹教授、野田幸矢准教授をはじめとする教職員・学校関係者の方々、そして友人や家族のおかげで、充実した学校生活を送ることができました。5年間、本当にありがとうございました。

# 電気電子システム工学科

Electrical and Electronic System Engineering



## 5電の卒業生へ

5年担任 濱崎 真一

君たちを預らせていただいたの3年間はあっという間でした。昔ほど若さも熱量も足りていない担任でしたが、君たちにとって何かしらの意味を持たせてあげられたでしょうか？とにかくは電気電子システム工学科での5年間、本当にお疲れさま。そしておめでとう。皆さんが積み重ねてきた学びと経験は、これから進む道の確かな土台となり、どのような環境でも必ず力を発揮してくれるはず。ただ新しい挑戦に踏み出すとき、不安や迷いを感じることもあるでしょう。しかしながら私は皆さんなら必ず乗り越えられると信じています。困ったとき、悩んだとき、あるいはちょっと話したいだけのときでも構いません。私はいつでも相談にのりますから、手みやげの一つでも持って訪ねてください。これからの皆さんの歩みが実り多く、誇りに満ちたものとなることを心から願っています。

## 卒業を迎えて

5年 小葉 司

5年前、不安と期待を胸に福島高専の門をくぐってから、今日までの時間は振り返ればあっという間でした。電気電子システム工学科の一員として、多くの学びと経験を重ねる中で、知識だけでなく、人としても大きく成長することができました。実験やレポートに追われる日々は決して楽なものではありませんでしたが、仲間と助け合いながら乗り越えた経験は、私たちにとってかけがえない財産です。

また、文化祭や体育祭などの学校行事では、クラスが丸となって取り組むことで、学業とはまた違った絆を築くことができました。4年生、5年生の2年間、委員長を務めさせていただきましたが、至らぬ点も多かった私を温かく支えてくれたクラスの皆さんには、感謝の気持ちでいっぱい。皆さんの協力があったからこそ、責任ある役目を果たすことができました。

そして、これまで熱心にご指導くださった先生方、陰ながら支えてくれた家族をはじめ、私たちを支えてくださったすべての方々へ心より御礼申し上げます。これから私たちは、それぞれ異なる道へと進みます。高専で培った専門知識と問題解決力、そして仲間と過ごした5年間の経験を胸に、社会に貢献できる技術者として成長していきたいと思っております。5年間、本当にありがとうございました。

# 化学・バイオ工学科

Applied Chemistry and Biochemistry



## 未来に向けて

5年担任 天野 仁 司

卒業おめでとうございます。と、祝辞を贈る場ではありますが、卒業は、新たな世界への出発点ですから、この先の道で迷わないように、道しるべとなることを書こうと思います。

いま、進行している技術革新や人々の価値観の変化は、皆さんのこれからの人生に、チャンスもリスクも与えることになるでしょう。働き方改革やAIの普及などといった世の中の動向を見ても、精神的な充足の追求と情報の真偽の判断が、チャンスを掴むために重要だと考えられます。

ときに、思い込みや先入観はとても危険です。溢れる情報を鵜呑みにせず、客観的なデータを行動決定の拠り所にしてください。そして、時間的にも空間的にも広い視野を持ってください。

自分だけければいいという考えでは、真の価値は創造できません。また、物質的な豊かさがあったとしても、精神的に追い詰められては、本当の価値とは言えません。ぜひ、誰もが豊かになれるように、社会に貢献してください。

## 共に過ごした5年間

5年 蛭田 柊 宇

15歳で入学してからはや5年、人生の約4分の1を共に過ごした学び舎を離れる時が来ました。

入学して間もない頃、昼休みの教室では全員が黒板の方を向き、張りつめた空気の中で黙々と食事をしていました。そうした様子に象徴されるように、当初はどこかぎこちない関係でした。しかし5年という歳月の中で、私たちは少しずつ言葉を交わし、互いの趣味や価値観を知り合い、課題や試験では教え合い、支え合う関係を築いてきました。何気ない日常の一つひとつがかけがえのない思い出となり、共に過ごした毎日は、確かに楽しく、温かなものでした。

卒業後はそれぞれ異なる道に進むこととなりますが、それぞれの場所で歩みを進める皆さんの活躍を願っています。私自身もさらなる研鑽を重ね、高専で過ごした、知識を深め視野を広げた歳月を糧に、これからの道を歩んでいきたいと思います。お世話になった先生方、クラスの皆さん、本当にありがとうございました。

# 都市システム工学科

Civil and Environmental Engineering



## 贈る言葉

5年担任 金 高 義

5年都市システム工学科・学生諸君、ご卒業おめでとうございます。

皆さんの多くは2021年度コロナ禍での入学となりました。

オンライン授業や、行動制限がかかる中での上校生活は苦しいことも多かったかと思います。

その中であって、決して容易ではないこの福島高専本科の教育プログラムを見事修了して、卒業していきます。その努力と実力には敬意を表します。

そして、苦しいことだけではなく、楽しい思い出も作ったと思います。

ささやかなことかもしれませんが、学生同士でお茶会をしたり、サッカーをしたり、少しでも毎日の生活を楽しくしたいと行動する姿は、コロナ禍において一服の清涼剤でした。

私が密かに誇りに思うことは、41名全員が卒業後の進路を自力で切り開いたことです。その上、その進路が全て土木系であるということです。

この卒業証書と学位をもとに、皆さんが素晴らしいキャリアと人生を切り開いていくことを心より祈念しています。

## 責任と学びの両立

5年 渡 部 颯 斗

高専での5年間は、学習面と委員会活動の両面において、自分自身を大きく成長させる時間であった。学習面では、学年が進むにつれて専門科目が増え、内容も難しくなり、理解に時間がかかることも多かったが、ひとつひとつの分野に真剣に向き合い、基礎を疎かにしないことを心掛けてきた。その結果、専門科目に得意分野ができ、成績も上昇したことで、大学に推薦で編入学することが決まり、メリハリをつけて取り組む重要性も感じる事ができた。一方で、2年生から5年生までの4年間は委員長として活動し、学級の運営や意見調整に携わってきた。責任ある立場として判断に迷う場面も多く、決して楽な役割ではなかったが、周囲の意見に耳を傾け、クラスメイトと協力しながら物事を進めることの大切さを学んだ。学習と学級運営を両立する中で、継続して努力する力や、人と向き合う姿勢を身に付けることができたと感じている。

# ビジネスコミュニケーション学科

Business Communication



## 帰る場所

5年担任 高木 信太郎

皆さんのなかには、これから故郷を遠く離れて暮らしていく人も多いですね。

私も、故郷を遠く離れ、外国で暮らしたことがありました。そんな時に用事があって空港に行くと、JALやANAの出発案内の放送が聞こえることがありました。Tokyo Naritaと聞かたびに、なぜか泣きそうになりました。あれに乗れば日本に帰れるけれど、自分は帰れない。そんな気持ちだったかもしれません。

東京駅や上野駅では、いわき行きの列車の出発案内放送を聞くことがありますね。東京で生活している皆さんがあの放送を聞いた時にどう思うのか、私にはわかりません。ですが、いわきも福島高専も、皆さんの帰ってこられる場所として、存在し続けています。辛かったり、迷ったり、見失いそうなことがあったら、帰ってきてください。

何かの理由で帰れなくても、帰る場所があると思えば、頑張れることもあるでしょう。この5年間を思い出して、また明日から頑張ろうと思ってもらえると嬉しいです。

## 素敵な5年間

5年 村山 くるみ

気が付けば、福島高専で過ごした日々もあっという間に過ぎ、いよいよ卒業を迎えることとなりました。入学した頃は不安も多くありましたが、授業や学校行事を通して、たくさんの経験を積むことができました。

私が高専生活を振り返って強く感じることは、「素敵なクラスメイトに恵まれたなあ」ということです。3年生の文化祭で出店したキッキングスナイパーでは、準備から当日の運営まで協力して取り組み、団結力を実感しました。また、4年生での学科PV作成では、例年意見がぶつかることもあると聞いていましたが、最後まで揉めることなく楽しみながら完成させることができました。そしてみんなと過ごした何気ない日々が私にとって、とても大切な思い出になりました。みんな大好きです！

これまで支えてくれた家族や友達、先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました！高専での経験を糧に、新しい環境でも挑戦を続けていきたいです。

# 生産・情報システム工学コース



専攻科修了おめでとうございます

7年間お世話になりました

コース長 植 英 規

2年 江 尻 康 太

専攻科生として過ごしたこの2年間は、皆さんにとってどのような期間であったでしょうか。本科を含めた7年という時間は、世の中の状況、特に技術的な領域において大きな変化が起こるのに十分な長さです。現在進行形で起きている、生成AIをはじめとした情報技術の発展と社会への広がりを目の当たりにすると、そのことがあらためて実感されます。

さて、専攻科を修了し、それぞれ新たな道へと進んでいく皆さんには、こうした技術発展の利点を享受するだけでなく、その発展をさらに進める存在となることを期待しています。

世の中には解決すべき課題が数多く存在します。皆さんも将来、それぞれの道で壁にぶつかることがあるでしょう。そのようなとき、本校で学んだ知識や技術、そして卒業研究や特別研究への取り組みは、必ず皆さんの大きな力になるはずです。

これからも、皆さんなりの学びを続けてください。

専攻科修了おめでとうございます。

本科と専攻科を合わせ、7年過ごした学校を卒業する日が近づき、嬉しい反面、寂しい気持ちになります。これまでの思い出を振り返ろうと、スマホの写真フォルダを覗いてみました。すると、色鮮やかな写真よりも、レポートや課題を写した味気ない写真が大半を占めており落胆しました。一方で、7年も頑張ってきたのだと誇らしくもなりました。そんな学生生活の中での一番の思い出は、コロナが落ち着き、制限なく迎えられた本科5年の磐陽祭で、気合を入れて取り組んだホットドッグ屋が大盛況となったことです。

学生生活も終わり、この春から社会人になります。新たな環境での生活には多少の不安もありますが、働き始めることへの期待を感じています。高専で学んだ事を活かし、今後も自ら学ぶ姿勢でさらに成長していきたいと思います。

最後に7年間通わせてくれた両親、日々ご指導くださった先生方、そして共に支え合った友人たちに心から感謝申し上げます。

# エネルギーシステム工学コース



## 明るい未来を

コース長 鄭 耀 陽

皆さん専攻修了を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

この専攻科の2年間、皆さんはさらなる専門的な内容に果敢に挑み、実験や研究を通して数々の困難を乗り越えてきました。特に研究では、思いがけない結果に直面し、原因の特定と改善に多くの時間を費やしたこともあったでしょう。しかし、そのたびに試行錯誤を重ね、前へ進むための工夫を凝らす姿勢には、技術者としての強い成長を感じていました。社会に出れば、自分の力だけでは解決できない課題にも出会います。仲間との協力や多様な意見を取り入れることで、新しい可能性が開けることもまた多くあります。皆さんがこの専攻科で築いた経験は、必ずや未来の大きな力となるでしょう。どうか失敗を恐れず、自らの力を信じ、力強く歩みを進めてください。皆さんの明るい未来を心から願っています。

## 7年間の歩みと感謝

2年 水 竹 巧

入学当初は長いと感じていた高専生活も、振り返ってみればあっという間に7年間が過ぎました。今思えば、人生の中でも特に密度の濃い、充実した日々であり、その一日一日が瞬間に過ぎていったように感じられます。テストやレポートに追われ、互いに弱音や文句を言い合った日々、部活動では思うような結果が出ず、顧問の先生やコーチから厳しいご指導を受けたこともありました。しかし、そのような困難な状況の中でも、クラスメイト、先輩、後輩と支え合い、励まし合いながら乗り越えてきた経験は、今となっては忘れることのできない大切な思い出です。

専攻科では学会発表を行う機会にも恵まれ、自身の成長を実感することができました。これからは社会人、そして技術者として、高専生活で培った力を生かし、母校の誇りとなれるよう努力してまいります。最後に、支えてくださった家族、先生方、友人の皆様に心より感謝申し上げます。

# 化学・バイオ工学コース



令和7年度化学・バイオ工学コース2年の皆様へ

15から22までの7年間

コース長 押手 茂 克

2年 大竹 蘭 珠

専攻科修了、おめでとうございます。専攻科入学から早いもので、本科を合わせた7年間の福島高専での学修を2026年3月で修了するにあたり、非常に感慨深い思いです。

4月からは、自分の夢に向けて新しい道を歩むこととなります。専攻科で培った知識・技術を背景に、自信を持ち、いろいろなことに挑戦していきましょう。新しい生活環境、興味深い多くの事柄、そして、より力をつけるべく励むこともあると思います。福島高専専攻科化学・バイオ工学コースで修得した適応力・応用力・発想力を活かし、自分の力を遺憾なく発揮していきましょう。皆さんの活躍を楽しみにしております。いつまでも皆さんの元担任の一人です、近くに来た折は福島高専を訪ねてください。専門家として大きく成長した姿に出会いつつ、思い出ばなしをすることを楽しみにしています。

慣れない正装で入学式に参加した日から7年。そんな長い年月を福島高専で過ごせたことを嬉しく思います。

私が入学当初にイメージしていた22歳は、大人びていて、社会人と呼んでも遜色ない人柄や凛とした佇まいを備えている存在でした。しかし、実際にその年齢になってみると、まだまだ未熟な点が多く社会経験の浅さを痛感する場面もあります。そんな私も今年度から新しいスーツと革靴に身を包み、社会人として歩み始めます。

7年間学んだ化学の道ではなく、将来の起業につながる不動産営業の道へ進む決断をしました。自分の選択を後悔しないよう、今できることを考え続けて努力を惜しまず行動し、福島高専のみんなが認知するほどの不動産会社をいわきに創業します。その時に「大竹蘭珠」という名前を再び聞いてもらえるよう歩んでいきます。

“今しかない学生生活”を存分に楽しみ、人生の目標に近づける有意義な時間を過ごして下さい!!

7年間ありがとうございました。

# 社会環境システム工学コース



## 専攻科修了おめでとうございます

コース長 高 荒 智 子

ご卒業おめでとうございます。

皆さんは、7年間という長い月日を高専で過ごしました。それぞれの青春の思い出には、いつも高専の学びや仲間の存在があったことでしょうか。中でも、学生生活の集大成でもある専攻科での2年間は、研究に心血を注いだ日々だったのではないのでしょうか。指導教員とのディスカッションや学会発表など、自らの取り組みや考えを表現する経験は、本科とは異なり「知識を使いこなす力」を育んだはずです。時には孤独と向き合い、それでも地道に努力を重ねた皆さんは、この2年間で確かな成長を遂げました。

私自身、コース長として過ごした1年間は、皆さんのおかげで楽しく充実していました。若々しさの中にも、大人として落ち着いて物事を捉える皆さんの姿は、とても頼もしいものでした。

高専愛を胸に、自信と誇りをもって社会に羽ばたいてください。皆さんが思い描く素晴らしい未来が、現実のものになるように願っています。

## 7年間の思い出と経験

2年 紙 谷 李 華

7年間を振り返ると、多くの支えに恵まれた日々だったと感じています。専攻科では一人で過ごす時間が増え、不安もありましたが、先生方に支えていただき、最後までやりきることができました。研究活動では、学会や学科内での研究発表、締切に追われる日々など、苦労もありましたが、それらは、来年から社会に出る私たちの成長に繋がったと感じています。先生方、個性の強い私たちを最後まで温かく見守っていただき、本当にありがとうございました。

そして同級生のみんな。この4人で過ごせて本当によかったと思うほど、入学時から関係性が大きく変わったと感じます。学科行事で万博に行った思い出は、私にとって専攻科生活の転機となり、その後の日々を支える原動力の一つでした。本当にありがとう！

7年間の思い出と経験を胸に、福島高専で出会った友人、先生方とのご縁を大切にしながら、次の環境でも頑張っていきます。7年間本当にありがとうございました。

# ビジネスコミュニケーション学コース



## 専攻科の修了に寄せて

コース長 湯川 崇

専攻科のご修了、誠にありがとうございます。本科と専攻科を合わせた7年間、皆さんが学業や研究、そしてインターンシップなどに真摯に取り組み、たくましく成長されたことを誇りに思います。

現代社会は、AI技術の急速な進歩や世界情勢の変化により、一層予測困難な時代を迎えています。困った時にすぐ教員に頼ることができたこれまでとは異なり、これからは自らの力で決断し、答えのない問いに立ち向かわなければならない場面も増えるでしょう。しかし、本専攻で磨き上げた高度なコミュニケーション能力と専門知識は、どのような環境でも道を切り拓く大きな力となるはずです。

4月からは社会人としての新たな生活が始まります。失敗を恐れずに挑戦し、常に新しい知識を吸収し続ける学びの姿勢を生涯持ち続けてください。

福島高専で得た経験と誇りを胸に、地域や国際社会の舞台で皆さんが自分らしく輝き、大いに活躍されることを心より期待しています。

## 7年間で得た学びとこれから

2年 小松 美月

私にとって長く密度の濃い7年間の高専生活は、社会へ出るための重要な準備期間となりました。英語の課題に悩んだときには夢で英語を話し、研究発表前は夢でも発表を繰り返し、定期試験が近づけば試験内容が夢に現れるほど学業に真剣に向き合った日々は、今後直面する困難な仕事にも立ち向かえる確かな土台となりました。

また、ベトナムや台湾へ赴き、現地の学生と交流したことは、私個人にとって高専ならではの得難い経験となりました。観光では立ち入れない場所や視点に触れた時間は私の視野を広げてくれました。これらは単なる思い出以上に多角的な視点を養い、自身の価値観を形成する上での重要な一部になったと確信しています。

高専での成長の度合いを今ここで測ることはできませんが、これからの社会人生活の中で高専での学びが活きる瞬間を見つけていきたいです。最後になりますが、これまでご指導、ご支援を賜りました皆様に、心より感謝申し上げます。

## 本科生の進路状況 (令和8年3月卒業) ( )は女子学生

| 区分   | 機械システム工学 | 電気電子システム工学 | 化学・バイオ工学 | 都市システム工学 | ビジネスコミュニケーション | 計        |
|------|----------|------------|----------|----------|---------------|----------|
| 卒業者数 | 35 (1)   | 34 (5)     | 39 (22)  | 41 (11)  | 40 (30)       | 189 (69) |
| 進学者数 | 18 (0)   | 12 (1)     | 16 (8)   | 20 (3)   | 23 (19)       | 89 (31)  |
| 就職者数 | 17 (1)   | 22 (4)     | 20 (12)  | 21 (8)   | 15 (11)       | 95 (36)  |
| その他  | 0 (0)    | 0 (0)      | 3 (2)    | 0 (0)    | 2 (0)         | 5 (2)    |

## 専攻科生の進路状況 (令和8年3月修了) ( )は女子学生

| 区分   | 産業技術システム工学専攻 | ビジネスコミュニケーション学専攻 | 計       |
|------|--------------|------------------|---------|
| 修了者数 | 18 (6)       | 5 (4)            | 23 (10) |
| 進学者数 | 2 (0)        | 0 (0)            | 2 (0)   |
| 就職者数 | 16 (6)       | 5 (4)            | 21 (10) |

## 進路先大学院

東京科学大学大学院

北陸先端科学技術大学院大学

産業技術システム工学専攻(2名)

## 卒業生の進路一覧

### 機械システム工学

福島高専専攻科(4名)／長岡技術科学大学(3名)／豊橋技術科学大学(4名)／室蘭工業大学／茨城大学(2名)／宇都宮大学／東京科学大学／東京農工大学／会津大学／アマゾンジャパン(同)／アルプスアルパイン(株)／いわき大王製紙(株)／クリナップ(株)／(株)クレオ／(株)JERA／(株)タジマモーターコーポレーション／東京ガス(株)／東京電力ホールディングス(株)／東電設計(株)／(株)東日本計算センター／(株)日立ハイテク／古河電池(株)／ムラテックCCS(株)(2名)／ユニ・チャームプロダクツ(株)(2名)

### 電気電子システム工学

福島高専専攻科(5名)／長岡技術科学大学／豊橋技術科学大学／北海道大学／茨城大学(2名)／福井大学／千葉工業大学／(株)アルデンジャパン／NTTアノードエナジー(株)／NTTインフラネット(株)／(株)エヌ・ティ・ティ エムイー／NTTドコモビジネスエンジニアリング(株)／(株)ENEOS NUC／(株)カネカ／(株)クレスコ／スズキ(株)／(株)TBSアクト／東海旅客鉄道(株)／東京エレクトロン(株)／東芝コンピュータテクノロジー(株)／東洋建設(株)／日本信号(株)／日本精工(株)／(株)日立パワーソリューションズ／富士電機(株)／三菱電機エンジニアリング(株)(2名)／三菱電機ディフェンス&スペーステクノロジーズ(株)／レンゴー(株)

### 化学・バイオ工学

福島高専専攻科(4名)／長岡技術科学大学(2名)／豊橋技術科学大学／東北大学(2名)／茨城大学／筑波大学／

宇都宮大学／東京農工大学／横浜国立大学／新潟大学(2名)／(株)アルピオン／(株)カネカ／クリナップ(株)／(株)クレハ／(株)クレハ環境／(株)ケミクレア／昭和産業(株)(2名)／第一三共(株)(7名)／大日精化工業(株)／(株)田中貴金属グループ／東亞合成(株)／三菱ガス化学(株)／ライオン(株)／林業アカデミーふくしま

### 都市システム工学

福島高専専攻科(4名)／長岡技術科学大学(6名)／豊橋技術科学大学(2名)／室蘭工業大学／福島大学／茨城大学／宇都宮大学／千葉大学／信州大学／高知大学(2名)／(株)東コンサルタント／(株)エコー／鹿島建設(株)／極東興和(株)／(株)郡山測量設計社／(株)地質基礎／東京ガスネットワーク(株)(3名)／東京水道(株)(4名)／東京電力ホールディングス(株)／東北電力(株)／中野建設コンサルタント(株)(2名)／東日本旅客鉄道(株)／(株)富士ピー・エス／いわき市役所／(独法)水資源機構

### ビジネスコミュニケーション

福島高専専攻科(4名)／福島大学／筑波大学(3名)／宇都宮大学／新潟大学(2名)／東京農工大学／富山大学／金沢大学／広島大学(2名)／九州大学／高崎経済大学／長野大学／東北芸術工科大学／中央大学(2名)／跡見学園女子大学／アイリスオーヤマ(株)／(株)アコム(2名)／(株)アトックス／(株)エヌ・ティ・ティ エムイー／川崎陸送(株)／キャノンアネルバ(株)／税理士法人くちき会計／東京ガス(株)／ゼビオ(株)／東和総合住宅(株)／日本ファブテック(株)／ヤマキ工業(株)／(株)LIXIL(2名)

## 修了生の進路一覧

### 産業技術システム工学専攻

東京科学大学大学院／北陸先端科学技術大学院大学／ANAラインメンテナンステクニクス(株)／サントリーホールディングス(株)／城北化学工業(株)／中外製薬工業(株)／(株)東京建設コンサルタント／東京電力ホールディングス(株)／トヨタ自動車(株)／日揮(株)／日東電工(株)／(株)ニュー

ジェック／パナソニック オートモーティブシステムズ(株)(2名)／(株)ひだまりハウス／備北粉化工業(株)／福島キャノン(株)／いわき市役所

### ビジネスコミュニケーション学専攻

はるかぜ税理士法人河井事務所／(株)東日本計算センター／ビジネスゲートウェイ(株)／いわき市役所(2名)



## 学生会の新体制開始

令和7年度学生会会長 小野 泰 耀

1年間学生会長という責任ある立場に就かせていただき、多くの学びと経験を得ることができました。

この1年間で一言で表すなら“てんやわんや”が相応しいと思います。私は学生会の認知度が低く信頼も低いという問題を注視し『学生会の活動を公開』『学生の声を学校に届ける』『学校のお金を適切に管理』の3つの公約達成に尽力しました。

学生会の活動は学生会のInstagramで公開したり、年間作業内容を正面玄関で公開させてもらったりと学生会の名前が学生の目に留まるようにしました。また、学生の声を学校に届けることで髪型についての校則を改定し、学校のお金も毎年超過する文化祭費用を文化祭実行委員長と協力して予算内に抑えることができました。

学生会役員1年目で会長になり、右も左も分からない私がここまで来られたのは他の役員と先生方のおかげです。これからも学生からの信頼を損なわないように学校と手を組んで歩んでいきたいと思っています。

### 令和7年度 学生会執行部・役員

2025/5/21 現在

| 役 職   | 氏 名   |
|-------|-------|
| 会 長   | 小野 泰耀 |
| 副 会 長 | 泉田 理咲 |
|       | 木村 想良 |
| 書 記   | 小野 咲来 |
|       | 加藤 朋美 |
|       | 竹内 一花 |
| 会 計   | 會田さくら |
|       | 高木 美佑 |
|       | 岩村 桃  |
|       | 高木 真士 |
|       | 青木 詩栞 |

| 役 職   | 氏 名   |
|-------|-------|
| 広報・渉外 | 橋本 拓真 |
|       | 菱事 愛奈 |
|       | 山田蒼之介 |
| 監 査   | 池田ひかり |
|       | 阿部 勝成 |
|       | 櫛田 莉央 |
|       | 工 明瑛  |
| 補 助   | 永井 愛乃 |

| 役 職            | 氏 名   |
|----------------|-------|
| 学生会担当<br>学生主事補 | 廣瀬 大輔 |



## 11/1(土) 磐陽祭2025を開催

11月1日(土)に、本校の文化祭「磐陽祭2025」を開催しました。

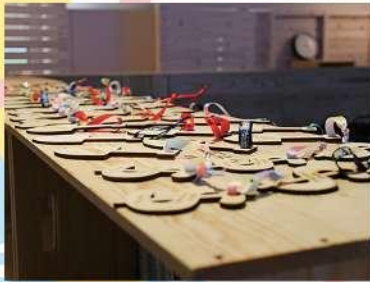
今年の磐陽祭のテーマは「高専万博! ~集まれ未来を担う若者たち~」です。世界各国が最新の技術や文化を紹介し、国際的な交流を促している万博のように、磐陽祭が、未来の技術者同士、学科や年齢に関係なく交流できる場になってほしいという思いがこのテーマに込められています。

このテーマのもと、磐陽祭実行委員会の学生が中心となり、数ヶ月前から準備を行ってきました。来場者の皆さまに楽しんでいただけるよう、各学科等では、オープンキャンパスコーナーにおいて学科等の特色や取組を紹介し、部活動・学生団体等では、飲食物を提供する模擬店や普段の活動成果を発表する展示を行うなど、様々な催し物が出展されました。

天候にも恵まれ、2,500名を超える方々にご来場いただき、大盛況のうちに幕を閉じることができました。



## インキュベーションルーム開設記念イベント



12月24日(水)、講義A棟3階に新設されたインキュベーションルームの開設を記念し、学生主体によるイベントを開催しました。学生会を中心に、ソーシャル・クリエーション研究会や有志の学生が企画から運営までを担当し、多くの学生が参加しました。

会場には、学生がアイデア出しを行い、磐陽テックガレージと連携して制作したクリスマスオーナメントが飾られました。また、フェアトレードコーヒーやココアの無料提供、特製缶バッジ作り、持ち寄り品を交換するリサイクル企画など、多様な体験が用意されました。弾き語りやDJパフォーマンスも行われ、来場者は音楽とともに交流を楽しみました。

## 第10回廃炉創造ロボコンを開催

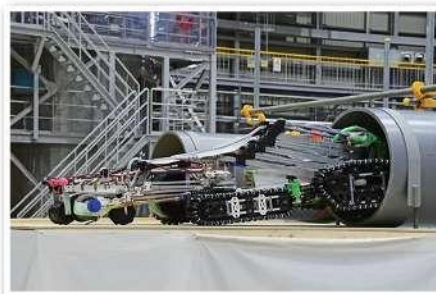
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（JAEA）及び廃止措置人材育成高専等連携協議会（会長：福島工業高等専門学校長）が主催する「第10回廃炉創造ロボコン」が令和7年12月20日（土）、JAEA楡葉遠隔技術開発センターを会場に実施されました。

この廃炉創造ロボコンは、ロボット製作を通じて学生に廃炉に関する興味を持たせると同時に、困難な課題の解決に挑むことで創造性の涵養に貢献すること、また、課題発見能力、課題解決能力を養うことを目的として平成28年度から開催されています。

大会では書類選考によって選ばれた全国の国公立高専16チームと海外から参加のマレーシア工科大学、KOSEN-KMITL（タイ高専）を含む全18チームが競技を行いました。

競技では各チームが創造性を発揮し課題に挑む中、参加チームで唯一課題をクリアしたKOSEN-KMITL（タイ高専）が、初出場で最優秀賞の文部科学大臣賞に輝きました。

福島高専から出場した2チームは、特別賞（東京パワーテクノロジー賞）、特別賞（アスム賞）を受賞しました。



## SDGs Webinar 2025 ～シリコンバレー・アントレプレナーシップ～を開催

今年度も長岡技術科学大学・豊橋技術科学大学との共催で「SDGs Webinar 2025」を開催しました。令和7年9月27日（土）～11月8日（土）にかけてオンライン形式で5回のワークショップを開催し、12月6日（土）にハイブリッド形式で最終発表会を実施しました。

一連のワークショップでSDGs達成に向けた条件やそのマインド作り、世界の取組み事例、アイデアのを見つけ方やブラッシュアップの仕方、デザイン思考に必要なこと等について各講師からご教授いただきました。

また、チームごとのグループワークでは、SDGs17を取り入れたビジネスモデルプランの作成に取り組みました。

本校学生7名、長岡技科大5名の合計12名の参加学生は、最終発表会において3チームに分かれ、資料は英語、プレゼンテーションは日本語を使用し、各ビジネスプランを提案しました。Webinarで講師を務めた審査員の方々からアドバイスや講評をいただき、3チームにはそれぞれ「社会インパクト力 No.1」、「プレゼン力 No.1」、「デザイン思考力 No.1」の各賞が授与され、うち1チームが「実現性 No.1」賞のダブル受賞を果たしました。

2020年からスタートした本校主催のSDGs Webinarも6年目を迎え、来年度開催に向けて、より一層充実した内容に進化し継続する予定です。



## 台湾・高雄での海外研修を実施

高専生の海外活動支援事業の一環として令和7年9月9日（火）から12日（金）まで、台湾南部・高雄にて異文化交流を目的とした海外研修を実施し、福島高専からは16名の学生が参加しました。

9月10日（水）には高雄女子高校を訪問し、鄭文儀校長をはじめ、先生方や生徒の皆さんから温かい歓迎を受けました。両校の学生たちは英語を使いながら、お互いの学校生活や高雄の観光名所、いわきおどりなどについて幅広く活発に交流しました。この交流を通じて、福島と高雄の若者たちは友情の絆を深めることができました。今後のさらなる発展を期待しています。

翌日には、美麗島駅や蓮池潭龍虎塔、高雄市の文化クリエイティブ産業の拠点である駁二芸術特区などを見学し、世界初の全線架線レス路面電車も体験しました。4日間を通じて、現地の人々とのふれあいや、高雄の発展ぶり、台湾と日本の生活様式や文化の違いなど、多くのことを学ぶことができました。参加した学生からは「貴重な経験ができてとても楽しかった」「また台湾を訪れたい」といった声が寄せられました。



## カーボンニュートラル社会連携共同講座「公開シンポジウム」を開催

カーボンニュートラル人財育成コンソーシアムと本校では、令和7年10月から半年間にわたり、地元企業の若手リーダーや学生を対象とした「いわきカーボンニュートラル社会連携共同講座」を全13回開講してきました。

この度は、これらの学びの成果を広く共有する場として、地元企業従業員、本校学生、一般市民を対象とした公開シンポジウムを令和8年2月6日（金）に開催しました。

はじめに基調講演として、環境省 大臣官房審議官 西村治彦 氏を講師にお迎えし、「カーボンニュートラル実現に向けて — いわきから日本、そして世界への挑戦 —」と題したご講演をいただき、続いて受講生による成果発表により、各班が検討してきた意見や提案を発表しました。

発表した合計10班について、審査員4名が、産・官・学・金の各分野の視点から審査を行い、優れた提案に対して4つの賞が授与されました。



—震災の記憶語り継ぐ—  
震災から15年 学生主体で「かたりつぎ」と防災の「自分事化」を発信

東日本大震災から15年を迎える中、本校は、学生が主体となり、震災の記憶を未来へつなぐ「かたりつぎ」と、防災を「自分事」として捉える取り組みを、いわき市内で発信しました。

3月7日（土）、いわき芸術文化交流館アリオスで開催された語り部シンポジウム「かたりつぎ～朗読と音楽のとき～」では、本校学生が自らの言葉で震災への向き合い方や防災の重要性をまとめた作品が谷川賢作さんのピアノ演奏のもと、俳優の竹下景子さんによる朗読によって、発表されました。

また、3月11日（水）に行われた「3.11ふくしま追悼復興祈念行事 キャンドルナイト」では、学生がかたりつぎの発表に加え、防災体験型展示などを担当しました。追悼の象徴であるキャンドルの静かな灯りのもと、学生が語る言葉や来場者との対話を通して、防災を「誰かの問題」ではなく「自分事」として考える機会が生まれました。



第3回モノづくりコンテストを開催

コンテストは、2月25日（水）に「インキュベーションルーム」にて、学生が審査員の校長先生と教職員の前で2分間のプレゼンテーションを行い、各々の展示ブースで実際の作品にふれてもらい審査員にアピールする内容で、応募者同士の交流も行える展示会方式のイベントとなっております。

当日は、応募作品11件（エントリー総数14件）の中から13名の審査員による投票が行われ、各賞の表彰者が決定しました。



【最優秀賞】

- 作品名「みちしるべ Kun」  
電気電子システム工学科 3年  
橋本拓真、遠藤怜奈、藤田彬秀

【技術賞】

- 作品名「フルハンドメイドのホールカットシューズ」  
産業技術システム工学専攻  
生産・情報システム工学コース 1年 八木まなと

【アイデア賞】

- 作品名「左右分割bluetoothキーボード」  
電気電子システム工学科 4年 笠原峻我

【優秀賞】

便利グッズ部門

- 作品名「ズボラ数学者のための数学用語スタンプ」  
機械システム工学科 3年 村岡央翔

AI活用部門 ※ダブル受賞

- 作品名「みちしるべ Kun」  
電気電子システム工学科 3年  
橋本拓真、遠藤怜奈、藤田彬秀

デザイン・アート部門

- 作品名「メタバース福島高専」  
電気電子システム工学科 3年 山本樹

ショート動画部門

- 作品名「インナーチャイルド」  
ビジネスコミュニケーション学科 4年 西塚礼莉

フリー部門

- 作品名「多種多様な独創機構の設計・製作」  
機械システム工学科 5年 本郷凌太郎

## 第60回全国高等専門学校体育大会

■サッカー 都城高専（高城運動公園多目的広場） 1回戦敗退

## 令和7年度福島県高等学校新人体育大会

### ■陸上競技

(男子)

100m 鈴木 颯真 (1E) 予選敗退  
3000mSC 草野 海成 (1E) 予選敗退  
" 松崎 晃大 (2E) 予選敗退  
走高跳 松崎 史弥 (2M) 予選敗退

(女子)

100m 洪木 愛未 (1B) 予選敗退  
走高跳 道幸 玲奈 (1T) 予選敗退  
走幅跳 遠藤こはる (2B) 予選敗退

### ■サッカー競技

2回戦敗退

### ■バドミントン競技

(男子)

学校対抗戦 ベスト8  
ダブルス 一条 英汰 (2E) 新妻優之介 (2C) ベスト16  
" 阿部 優哉 (2M) 藁谷 優雅 (2E)  
2回戦敗退

シングルス 新妻優之介 (2C)  
3回戦敗退

" 阿部 優哉 (2M)  
2回戦敗退

(女子)

ダブルス 堀越 万由 (1C) 永井 愛乃 (1B)  
2回戦敗退

" 坂本 遥花 (1C) 本郷 凜子 (1T)  
2回戦敗退

シングルス 永井 愛乃 (1B)  
2回戦敗退

### ■ソフトテニス競技

(男子)

団体戦 3回戦敗退  
個人戦 初瀬 瑛亮 (1C) 渡辺 獅士 (1C)  
3回戦敗退

" 太田 仁志 (2B) 中平 麗斗 (2B)  
2回戦敗退

(女子)

個人戦 赤津 佑菜 (1T) 今野 花凛 (1T)  
2回戦敗退

### ■バレーボール競技

男子

1回戦敗退

### ■卓球競技

(男子)

学校対抗戦 ベスト8  
ダブルス 古川真那斗 (2E) 鈴木 壱斗 (2T)  
2回戦敗退

シングルス 根本 孝明 (1M)  
1回戦敗退

" 鈴木 壱斗 (2T)  
2回戦敗退

(女子)

学校対抗戦 1回戦敗退

### ■水泳競技

(男子)

総合 第6位  
50m自由形 松本 夢空 (2T) 第2位

2回戦敗退

100m自由形 渡辺 周空 (2M) 予選敗退  
" 松本 夢空 (2T) 第5位

400m自由形 根本 琉誠 (2T) 予選敗退  
100m背泳ぎ 芳賀 亮裕 (2E) 予選敗退

100m平泳ぎ 大波 一咲 (1T) 予選敗退  
" 草野 加偉 (2M) 予選敗退

" 根本 琉誠 (2T) 予選敗退  
200m平泳ぎ 草野 加偉 (2M) 第5位

100mバタフライ 吉田 遥人 (1C) 第3位

" 渡辺 周空 (2M) 予選敗退

200mバタフライ 吉田 遥人 (1C) 第2位

4×100mフリーリレー (松本、草野、渡辺、吉田) 第5位

4×100mメドレーリレー (松本、草野、吉田、渡辺) 第5位

(女子)

50m自由形 佐藤 沙華 (1T) 第3位  
" 千代窪茉佑 (1B) 予選敗退

100m自由形 佐藤 沙華 (1T) 第5位

### ■剣道競技

男子団体戦 2回戦敗退

### ■弓道競技

(男子)

団体 予選敗退  
個人 赤塚 翔 (2E) 準決勝敗退

(女子)

団体 準決勝敗退  
個人 千葉 心陽 (2C) 予選敗退

## 各協会・連盟主催大会等

### ■陸上競技部

#### ◎第70回福島県高等学校駅伝競走大会

いわき連合チームB オープン参加

### ■サッカー部

#### ◎第104回全国高等学校サッカー選手権大会福島県大会

2回戦敗退

### ■ソフトテニス部

#### ◎第55回福島県高等学校ソフトテニスインドア選手権大会

男子団体戦 1回戦敗退

### ■弓道部

#### ◎第25回東日本高等学校弓道大会福島県最終予選会

女子団体戦 参加

#### ◎第33回東北高等学校新人水泳競技大会

(男子)  
50m自由形 松本 夢空 (2T) 第6位

100m自由形 松本 夢空 (2T) 予選敗退  
100mバタフライ 吉田 遥人 (1C) 予選敗退

200mバタフライ 吉田 遥人 (1C) 第6位

(女子)

50m自由形 佐藤 沙華 (1T) 予選敗退  
100m自由形 佐藤 沙華 (1T) 予選敗退

## 各種大会・コンテストの結果

### ■野球部

#### ◎第13回東北地区高等専門学校硬式野球交流戦

福島 8-9 秋田 1回戦敗退

### ■バスケットボール部

#### ◎令和7年度東北地区高等専門学校バスケットボール新人大会

(男子)

福島 36-43 仙台名取

福島 35-24 一関

福島 25-41 鶴岡

(女子)

福島 25-15 八戸

福島 20-57 秋田

福島 12-37 仙台名取

### ■ロボット技術研究会

#### ◎第23回交流ロボコン2026

予選リーグ敗退

### ■ソフトウェア研究会

#### ◎第23回全国高等学校パソコンコンクール パソコン甲子園2025

プログラミング部門 湯川 寛之 (1E)

大竹 頼人 (3B) 参加

■無線通信部

◎第30回福島県高校新人放送コンテスト

ラジオキャンペーン部門  
安藤 友哉 (1M)  
葉谷 歩昇 (2M) 参加

■吹奏楽部

◎第45回定期演奏会

■茶華道部

◎いわき学校茶道連盟第58回合同発表会 参加

■演劇部

◎いわき地区高等学校演劇コンクール

開催

優秀賞第三席

■鐵道愛好会

◎ふくしまローカル鉄道活用サミット 最優秀賞

◎いわき市鉄道交通を応援する会 鉄路セミナー 参加

連合会主催・後援のコンテスト等出場結果

■ロボット技術研究会

◎アイデア対決・全国高等専門学校

ロボットコンテスト2025東北地区大会

製作・調整協力：ロボット技術研究会  
学生

・Aチーム「登竜」  
齋藤 臣 (4M)  
鈴木 元大 (4E)  
鈴木 悠介 (2M) 特別賞受賞

・Bチーム「鳴門」  
荒木 結衣 (3M)  
大橋 ほの (3C)  
田中 暖人 (2E) 準優勝

■都市デザイン研究会

◎第22回全国高等専門学校デザインコンペティション2025 in 福井

構造デザイン部門  
・Aチーム「鬼つめに巻いた」  
會田 光基 (4T)  
大津留優空 (4T)  
三瓶 蒼惟 (4T)

高木 ゆりあ (4T)  
松崎 太希 (4T)  
松本 大河 (4T) 第16位

・Bチーム「Experience」  
小田嶋美海 (3T)  
金沢 笑瑚 (3T)  
齋藤あかり (3T)  
鈴木 大翔 (3T)  
山日 碧人 (3T)  
Fube Azinwi Millah (3T) 第53位

■ESS&ESD研究会

◎第19回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト

チーム部門 吉田 智晴 (1E)  
七海 弥麻人 (1T)  
雛形 瑛一郎 (1T) 参加

■Civil Doctors NITFC

◎第4回高専防災減災コンテスト

岡田 紗季 (5T)  
長瀬 匠真 (5T)  
山川 純平 (5T)

横山 亜衣 (2SE)  
最終審査会出場

■学生有志

◎高専インフラテックコン2025

チーム名「目からうろこ」  
大平 晟那 (2T)  
酒井 皇貴 (2T)  
蛭田 結菜 (2T)  
穂積 拓和 (2T)  
緑川 智一 (2T)  
渡邊美都輝 (2T)  
奥山 優衣 (3T)  
菅野 天雅 (3T)  
門馬 圭汰 (4T)  
小平 琉太 (1SE) 最終審査出場

◎令和7年度社会実装教育フォーラム

取組テーマ「付着藻類を活用した水質浄化技術とその社会実装」  
松本 祐音 (5T)  
大谷 亮介 (5T) プレゼンテーション賞

表彰

●福島高専専攻科学業優秀賞

産業技術システム工学専攻  
生産・情報システム工学コース2年 大内 紘斗  
エネルギーシステム工学コース2年 水竹 巧  
化学・バイオ工学コース2年 伊藤 るな  
社会環境システム工学コース2年 相澤 夏瞳  
ビジネスコミュニケーション学専攻  
ビジネスコミュニケーション学コース2年 小松 美月

●福島高専専攻科研究活動優秀賞

産業技術システム工学専攻  
生産・情報システム工学コース2年 館川 晃大  
エネルギーシステム工学コース2年 水竹 巧  
化学・バイオ工学コース2年 伊藤 るな  
社会環境システム工学コース2年 相澤 夏瞳

●特別表彰

TOEIC成績900点以上取得者  
ビジネスコミュニケーション学科

5年 丹野 美晴  
機械システム工学科3年 Erdev Naransolongo  
都市システム工学科3年 Fube Azinwi Millah  
AtCoder Junior League 2025 Summer  
高1個人アルゴリズム部門全国5位  
受賞のため  
電気電子システム工学科1年 湯川 寛之

●学会表彰

一般社団法人日本機械学会 畠山賞  
機械システム工学科5年 小川 大稀  
電子情報通信学会東北支部優秀学生賞  
電気電子システム工学科5年 猪狩 浩葵  
電気学会東北支部優秀学生賞  
電気電子システム工学科5年 雪下 翔平  
計測自動制御学会 優秀学生賞  
電気電子システム工学科5年 齊藤 侗貴  
日本化学会 東北支部長会  
化学・バイオ工学科5年 鈴木 南帆  
全国高専土木工学会 近藤賞  
都市システム工学科5年 小松 星愛

●福島高専協力会長賞

機械システム工学科5年 市村 侑己  
笠間 一希  
電気電子システム工学科5年 木村 想良  
小葉 司  
化学・バイオ工学科5年 蛭田 終宇  
緑川 玲花  
都市システム工学科5年 佐藤 舞桜  
吉田想一郎  
ビジネスコミュニケーション学科5年 鈴木 聖奈  
丹野 美晴

●福島高専同窓会長賞

電気電子システム工学科5年 木村 想良  
電気電子システム工学科5年 山崎 えん

# 連合会主催・後援のコンテスト等表彰

アイデア対決・全国高等専門学校  
ロボットコンテスト2025東北地区大会

Aチーム 特別賞受賞  
Bチーム 準優勝



第22回全国高等専門学校  
デザインコンペティション2025 in 福井

Aチーム 第16位  
Bチーム 第53位



第19回全国高等専門学校  
英語プレゼンテーションコンテスト

チーム部門 全国大会出場



第4回高専防災減災コンテスト

最終審査会出場



高専インフラテクコン 2025

最終審査出場



# 各種大会・コンテストの表彰

## 磐越東線利活用サミットで本校学生が最優秀賞を受賞

11月29日（土）に小野町で開催された、『磐越東線「ふくしま鉄道博」ローカル鉄道利活用サミット』（主催：福島県）に参加し、本校からの発表「公共交通間の協働による磐越東線の活用」が最優秀賞を受賞しました。

この発表は、磐越東線沿線から通学しているビジネスコミュニケーション学科5年の先崎天望さん、大山凛々さん、4年の中島愛心さんが、毎日通学で利用している磐越東線の利用者数を計測し、その結果を基に、鐵道愛好会の学生が中心となり、分析を行いました。なかでも、機械システム工学科3年の花井仁さんがデマンドバスの利用を始めとする利活用案を考えました。また、利活用策の検討に活かすために、機械システム工学科3年の山根勝さんは磐越東線のダイヤグラムを作成し、都市システム工学科2年の山田泰也さんは並行する高速バスと磐越東線を並列させた時刻表を作成しました。その後、5年都市システム工学科の川西紳太郎鐵道愛好会会長が発表の取りまとめを行い、2年都市システム工学科の蛭田宗太郎さん及び機械システム工学科3年の山根勝さんとともに発表しました。



## AtCoder Junior League 2025 Summer高校部門で本校学生が表彰

AtCoderが主催する中高生対象学校対抗競技プログラミング「AtCoder Junior League 2025 Summer」が2025年4月～9月の期間で開催され、本校学生が学校部門および個人部門で優秀な成績を収めました。

AtCoder Junior League (AJL) は、中高生を対象とした学校対抗の長期コンテストリーグで、与えられた問題を解決するプログラムを早く正確に提出しその正解数と順位を競うアルゴリズム部門と、最適解を出すのが難しい問題においてできるだけ良い解を探して制限時間以内に出力を競うヒューリスティック部門があります。

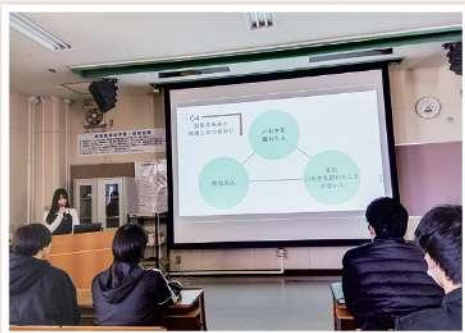
本校チームはアルゴリズム部門で第20位、個人としては電気電子システム工学科1年の湯川寛之さんが高1部門で第5位となり表彰されました。



# 各種大会・コンテストの表彰

## いわきビジネスプランコンテストアイデア部門で最優秀賞を受賞

第25回いわきビジネスプランコンテストアイデア部門最優秀賞にビジネスコミュニケーション学科4年江尻彩陽さんが選ばれました。江尻さんのビジネスアイデア「Dearふるさと」は、いわき市民や元いわき市民が、いわきを訪れたことがない人に向けて、いわきでの思い出などについての手紙を書き、SNSに投稿するアナログとデジタルを融合させたビジネスです。審査では、地域愛の発信や交流人口拡大が見込める点などが高く評価されました。



## みどり戦略学生チャレンジ東北ブロック大会で「東北農政局次長賞」及び「特別賞」を受賞

第2回みどり戦略学生チャレンジ東北ブロック大会において、本校学生が大学・専門学校の部で「東北農政局次長賞」及び「特別賞（みっちゃん賞）」を受賞しました。

この大会は、農林水産省が2050年に向けて策定した「みどりの食料システム戦略」の実現を目指し、全国の高校や大学から環境に配慮した様々な取り組みを募集し、審査されるものです。



受賞名：【大学・専門学校の部】東北農政局次長賞  
 チーム名：エコ農業Lab  
 学生氏名：大橋 和輝（都市システム工学科5年）  
 連名：大橋和輝（福島工業高等専門学校）、三浦拓也（福島工業高等専門学校）、長谷川貴士（NPO法人勿来まちづくりサポートセンター）、舘敬（NPO法人勿来まちづくりサポートセンター）  
 発表題目：プラスチックフリー被覆肥料で守る持続可能な地球の未来



受賞名：【大学・専門学校の部】特別賞（みっちゃん賞）  
 チーム名：福島高専 池水対策チーム  
 学生氏名：渡邊 柊斗（都市システム工学科5年）  
 野村 倫也（産業技術システム工学専攻/社会環境システム工学コース1年）  
 連名：渡邊柊斗、野村倫也、丹野淳、三浦拓也（福島工業高等専門学校）  
 発表題目：農地を守れ！農業用ため池からの硫化水素発生とその対策

# 退職者挨拶



機械システム工学科 高橋 章

このたび定年退職することとなりましたので挨拶させていただきたいと思いません。

過去を振り返れば、私は中学卒業後に福島高専に強い憧れを持って入学し、5年間高専生として過ごしました。その当時は教員になりたいという考えはなかったのですが、縁あって昭和62年4月から母校に奉職することになりました。私が常々考えて来ましたが、後輩達が実力をつけて卒業し、社会に貢献してほしいということでした。そのために印刷物などの教材を可能な限り工夫した授業としました。これまでの勤務39年の間に、授業方法は板書によるアナログからパソコンとスクリーンを用いたデジタルに変化して来ました。最近は動画を映したり、教科書のどの箇所なのかを確認するためにも有効であったかと思えます。

皆様には長年お世話になりましてありがとうございました。心より深謝申し上げます。

最後に皆様のご健勝とご多幸、福島高専のさらなる発展をお祈りいたします。



電気電子システム工学科 伊藤 淳

雪国秋田からいわきに移り住み39年、同じ東北でも、気候や文化の違いに戸惑いましたが、今ではすっかり馴染み、秋田弁といわき弁のハイブリッド?になっています。

電気の先生方はじめ多くの教職員の皆様そして学生の皆さんと、楽しく交流もてたことが、懐かしく思い出されます。そのなかでも、部活動が想いで深く感じられます。長らく務めたソフトテニス部では、全国大会で、北海道から九州まで、全国各地の名所を巡ることができました。部員の活躍に感謝します。また、広大な干拓地の大潟村で行われるソーラーカーの大会では、車体の破損、パンク、台風の直撃など、数々のトラブルに遭いながら、解決してゆく学生の姿が思い出されます。

数えきれない出来事がありましたが、この度、無事、退職を迎えることができました。ひとえに、温かくご支援をいただいた福島高専の皆様のおかげと深く感謝いたします。



一般教科保健体育科 根本 昌樹

教員の道に進みたいと思い始めた中学時代の担任大内先生、福島高専へ背中を押ししてくれた高校時代の陸上部監督山本先生、陸上競技指導で大きな影響を受けた大学時代の陸上部監督川本先生。「福島高専陸上部を全国優勝させて欲しい」と熱いお話を頂いた武田校長先生、「課外活動はひとつづくり」と共に長年顧問して頂いた物理科根本先生・鈴木先生。多くの諸先生からのご助言・叱咤激励を受けて39年間を全うすることが出来ました。「福島高専に貢献できたことは何か?」と聞かれ答えが出てこないのが心残りですが、様々な困難の中厳しい指導に耐え抜き5年間陸上競技を継続した226名の卒業生は私の誇りです。

時代に恵まれ、先輩諸先生に恵まれ、学生に恵まれ充実した39年間でした。退職後は迷惑をかけ続けてきた家族に少しずつ恩返ししながらゆっくりと進んで行きたいと思っています。本当にありがとうございました。

## 退職者挨拶



一般教科 小田 洋平

4月より、福島高専から私の地元にある石川高専へ異動することになりました。福島高専には11年半の在職となりました。物理の授業（32クラス）のほか、学級担任（H28、R3新入生）やクラブ顧問（バドミントン部）を通して、多くの学生と共に学んだ時間は、私の人生においてかけがえのない宝物です。それから、いわきの地は私にとって第三の故郷といえる場所となりました。お世話になった教職員・学生各位には心より感謝を申し上げます。

石川高専では物理に加えて数学と情報の授業を担当します。準備が大変そうにも思えますが、今まで担当した経験のない科目を受け持つことに、先日40歳になったにも関わらず新鮮な気持ちでワクワクしています。学生の皆さんも、変化に躊躇せず、新しい物事を受け入れられる柔軟性を大切にしてください。今の時代を生きるのに求められる感性ではないかと思えます。

それでは、お元気で。またどこかで会えるのを楽しみにしています。



総務課長 新里 雄

令和6年4月に有明高専から福島高専へ異動してから2年間、大変お世話になりました。着任以来、F-REIや協力会など関係機関との連携事業、いわきカーボンニュートラル人材育成コンソーシアムによる社会連携共同講座、廃炉創造ロココンなど、福島高専ならではの特色ある取組に携わる機会をいただき、本校に寄せられる地域や社会からの大きな期待と要請にどのように応えていくべきかを日々模索してまいりました。教職員・学生の皆様の真摯なご尽力に支えられ、微力ながら一定の貢献ができたのではないかと感じております。一方で、施設・設備の整備についてはまだまだ途上ですが、教育・研究の環境がさらに充実したものになるよう、今後も取り組みが進んでいくものと思います。令和8年4月からは富山高専に管理課長として赴任いたします。今後の皆様のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げますとともに、これまでのご厚情に深く感謝申し上げます。

## 令和7年度末 退職・転職者一覧

|   | 学 科         | 氏 名   | 退職・転出日        | 備 考        |
|---|-------------|-------|---------------|------------|
| 1 | 機械システム工学科   | 高橋 章  | R8.3.31（定年退職） | R8.4.1 再雇用 |
| 2 | 電気電子システム工学科 | 伊藤 淳  | R8.3.31（定年退職） | R8.4.1 再雇用 |
| 3 | 一般教科        | 根本 昌樹 | R8.3.31（定年退職） | R8.4.1 再雇用 |
| 4 | 一般教科        | 小田 洋平 | R8.3.31       | 石川高専へ（配置換） |
| 5 | 総務課長        | 新里 雄  | R8.3.31       | 富山高専へ（配置換） |
| 6 | 総務課施設管理係長   | 佐藤志鶴真 | R8.3.31       | 東北大学へ（転出）  |

# 学校だよりはSNS発信へと進化します！

福島高専は、公式SNSアカウントとして2026年4月に公式Xを開設いたしました。「学校だより」は本号が最終となります。

今後は公式Xにて、福島高専ホームページに掲載しているTOPICSのほか、日常の様子などの最新情報をアップします！

- アカウント名：【公式】福島工業高等専門学校
- ユーザー名：@FukushimaKOSEN



福島高専公式Xはこちら



## 公式Xでスピーディーに 学校の様子をお届けします！

旧



新



## 高等学校等就学支援金

高等学校等就学支援金制度とは、家庭の状況にかかわらず、全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込める社会をつくるため、国の費用により、学生の授業料に充てる高等学校等就学支援金を支給し、家庭の教育費負担を軽減するものです。

国立高等専門学校（第1学年～第3学年）も就学支援金制度の対象となっており、支給期間は原則として通算36月です。令和7年度までは所得要件（世帯年収約910万円未満）がありましたが、令和8年度から、制度の拡充により所得制限なしに支援を受けられるようになります。詳しくは本校からの文書、HP等によるお知らせをご確認ください。

## 授業料免除制度

授業料の免除は、国による高等教育の修学支援制度に基づく免除と、高専機構による免除があります。

高等教育の修学支援制度に基づく授業料免除は、本科4・5年生及び専攻科生で、経済的理由により授業料の納付が困難かつ学修意欲があると認められる者が対象です。学校による学修意欲等の判定を経て、日本学生支援機構により家計基準を満たすと認定された場合に、授業料の全額または一部が免除されます。また、令和7年度からの制度拡充により、多子世帯（生計維持者が扶養する子どもが3人以上）に該当する学生は、所得制限なしに授業料の全額免除を受けることができます。

高専機構による免除は、基準日（前期授業料については4月1日、後期授業料については10月1日）前6月以内に、学生の学資負担者死亡または風水害等の災害を受けたこと等により授業料の納付が困難と認められる場合に、授業料の全額または半額を免除する制度です。

高等教育の修学支援制度による免除・高専機構による免除どちらも、前期・後期ごとに学生本人による申請手続きが必要です。前期分は4月、後期分は9月が申請期間となっておりますので、必要な手続きについては、メール・HP等によるお知らせを確認するようにしてください。

お問い合わせは学生課学生支援係まで

■高等学校等就学支援金 ☎0246-46-0873 ■授業料免除制度 ☎0246-46-0736

## 行事予定(前期)

4月

2日(木) 入学式(本科・専攻科・編入学生)  
3日(金) 始業式  
新入生オリエンテーション  
専攻科始業式  
6日(月) 前期授業開始  
10日(金) 特研オリエンテーション(専1)  
15日(水) 全校・校外清掃日  
16日(木) 定期健康診断(休講日)  
25日(土) 公開授業・オープンclass春・寮生保護者総会・寮生保護者個別面談会  
27日(月) 開校記念日

5月

7日(木)～11日(月) 専攻科推薦入試願書受付  
15日(金) 専攻科推薦入試  
16日(土)～17日(日) オープンキャンパス・春  
25日(月)～29日(金) 前期中間試験期間

6月

1日(月)～3日(水) 前期中間試験期間  
10日(水)～12日(金) 専攻科学力入試願書受付  
20日(土) 専攻科学力入試  
22日(月)～26日(金) 学級懇談会(オンライン)  
26日(金)～28日(日) 東北地区高専体育大会

7月

1日(水) TOEIC-IP(3年)  
3日(金) 学生臨時休業(公開授業日の休日振替)  
3日(金)～5日(日) 東北地区高専体育大会  
8日(水) インターンシップ事前指導会(4年)  
24日(金)～30日(木) 前期期末試験期間  
29日(水)～31日(金) 編入学試験願書受付

8月

5日(水) 集会  
6日(木) 教室整備  
7日(金) 補講日  
8日(土) 閉寮  
10日(月)～9月23日(水) 夏季休業  
9日(日)～15日(土) 学校閉鎖  
23日(日) 開寮

9月

1日(火) 編入学試験  
4日(金) 補講日  
7日(月)～10日(木) 再試験期間  
12日(土)～13日(日) オープンキャンパス・秋  
29日(火) 集会・専攻科集会  
24日(木)～25日(金) 学科行事日(4年)  
24日(木)～28日(月) CBT試験  
29日(火)～30日(水) 校内体育大会

# 新任教職員紹介



一般教科（物理科）講師 小野里 宏 樹

4月より一般教科（物理科）の講師として着任いたしました小野里宏樹と申します。専門は天文学で、終末期にある恒星の研究や、近隣の宇宙地図を描く研究を行っています。これまで研究員として天文台で勤務してきましたが、学部から大学院までを過ごした東北の地に戻り教育・研究を行えることを嬉しく思います。学生の皆さんが社会で活躍できる基礎力を身につけるサポートをしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



総務課長 水戸部 幸 雄

4月1日付けて総務課長に着任しました、水戸部幸雄と申します。

前職では、茨城高専において課長補佐（財務担当）として勤務してまいりました。会計監査等で来校させていただいたこともあり、以前より面識のある方もいらっしゃるなど、身近に感じている高専でございます。

茨城からは比較的距離が近いものの、単身赴任となり多少の不安もありますが、福島高専のために精一杯努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



総務課 調達係 課員 長谷川 花 織

令和7年10月1日に採用になりました長谷川花織と申します。大学卒業後、民間企業で勤務しておりましたが、今回ご縁があり福島高専で働くことになりました。母校である福島高専の職員として働けること大変光栄に思います。

ご迷惑をお掛けすることも多々あると思いますが、1日でも早く皆さんの力になれるよう尽力して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



# 第65回 入学式

## 第65回入学式 及び 令和8年度編入学式 並びに 第23回専攻科入学式 式辞

福島工業高等専門学校 校長 岡本 任弘

皆さん、ご入学おめでとうございます。また保護者の皆様には、お子様のご入学を心からお祝い申し上げます。本日、この福島高専の門をくぐり、新たな学びの道を歩もうとする皆さんを、温かく歓迎いたします。

新入生の皆さんは義務教育を終え、これから5年間にわたる専門教育に挑むことになります。本校では、理論と実践の両方を大切にし、座学で学んだ知識を実験や実習を通じて深め、実社会で活かせる力を身につけてもらいます。この5年間は、単なる知識の習得にとどまらず、自ら考え、課題を発見し、解決策を見出す力を養うための大切な時間です。

相対性理論で知られる物理学者のアルベルト・アインシュタインは、あるインタビューの中で次のような趣旨のことを語っています。「知識には限界があるが、想像力は世界を広げ、進歩と革新を生み出す力を持つ。」この言葉は、AIが驚異的な発達を遂げている現代にこそ、より深く響きます。知識を得るだけなら、AIに聞けば瞬時に回答が得られます。しかし、現在のAIには自ら考え、想像力を働かせて新しいものを作り出す能力はありません。想像力を働かせること、物事を深く考えることは、人間である皆さんにしかできないことです。知識を学ぶだけでなく、それをどう使うか、どのように社会に活かしていくかといった視点を常に意識するよう心がけてください。福島高専では、課題解決型学習などを通じて、この自ら考える力を伸ばすことを重視しています。

また、授業での学びだけでなく、課外活動やコンテストなどを通じて多くのことに挑戦してください。目標に向かって自ら考え、工夫するという経験は、将来必ず皆さんの力になります。

海外から来た編入学生の皆さんにとっては、全く違う環境で生活と学びを両立させていくこととなります。ぜひなるべく多くの日本人学生と交流し、深いつながりを築いていってください。

次に、専攻科の入学生の皆さん。皆さんはこれから、さらに高度な内容を学ぶことになります。専攻科の先輩たちは、これまで、学会などで他大学の学部生はもちろん、大学院生とも競い合ってきました。そして修了後には、技術者として社会で活躍する道、起業して新しい価値を創造する道、研究者を志す道など、多彩な未来が待っています。皆さんが自分の夢を実現していけるよう、また、後輩達の良き手本となれるよう、一層の努力をしてくれることを期待しています。

最後に、皆さんに伝えたいことがあります。皆さんにはAIが持っていない「想像力」があります。想像力を鍛え、それを存分に発揮できる力を身に着けるためにも、「今できることに全力を尽くす」ことを忘れないください。時には息抜きも必要ですが、学ぶときには全力で学ぶ。新入生にとって5年先の卒業はだいふ先のことだと思ってもかもしれませんが、終わってみればあっという間だった、と感じていることでしょう。この長いようで短い時間をどう使うかは、皆さん次第です。皆さんがこの福島高専で、想像力を武器に様々なことにチャレンジできるよう、教職員一同、全力でサポートします。

改めて、ご入学おめでとうございます。皆さんの高専生活が実り多きものとなることを心から願い、式辞といたします。



## 誓いの言葉



新入生・編入生代表

化学・バイオ工学科  
黒澤 和真

暖かな日差しとともに吹く風が心地よく感じられる季節となり、私たち新入生213名、編入生4名は、福島工業高等専門学校に入学します。

私たちは、こうして本校の入学式に出席できることを大変嬉しく思います。

これから始まる5年間の高専生活の第一歩を踏み出すにあたり、私たちは、夢と希望で胸がいっぱいです。

私たちが生きる社会は、少子高齢化や環境問題、世界情勢の変化など、大きな転換期を迎えています。

こうした時代だからこそ、知識を深めるだけでなく、自ら考え、行動する力を身につけたいと思います。

それぞれが目標を持ち、それを成し遂げるために日々精進してまいります。

私たちは、何事にも積極的に取り組む心をもって、共に高め合う仲間と授業や部活動からたくさんのことを学べるように頑張ります。

学校や社会のルールを守り、先生方、先輩方のご指導の下、学力向上を図りながら、有意義な学生生活を送ることを約束し、誓いの言葉といたします。



専攻科新入生代表

産業技術システム工学専攻  
エネルギーシステム工学コース  
小薬 司

春光うらかな本日の佳き日に、私たち新入生のためにこのような入学式を挙げていただき、校長先生をはじめ教職員の皆様方に、新入生代表として、心より御礼申し上げます。新たな学習環境のもと、仲間とともに福島工業高等専門学校専攻科の一員として歩み始められることに、大きな喜びと誇りを感じております。

私たち21名は、本日、福島工業高等専門学校専攻科に入学し、新たな学びの場に身を置くこととなりました。本科5年間で培ってきた専門的な知識や技術、そして主体的に学ぶ姿勢を礎として、専攻科においては、より高度な専門知識の修得と実践的能力の向上に努めてまいります。そして、それぞれの専門分野への理解をさらに深め、技術者としての資質を一層高めることができるよう、日々の学びに真摯に向き合ってまいります。

専攻科で学ぶことのできる喜びを胸に、これまで支えてくださった家族や友人、教職員の皆様方への感謝の気持ちを忘れることなく、仲間とともに学びを深め、将来、社会の発展に貢献できる技術者・研究者となるよう努力することをここに誓います。以上をもちまして、新入生代表の言葉といたします。

# 学校だより

Vol. **120**

2026年5月発行  
(2025.10~2026.4)

**最終号**



## Contents

- |    |                                    |    |                     |
|----|------------------------------------|----|---------------------|
| 02 | 専攻科修了式・本科卒業式告辞                     | 20 | 学生の活躍               |
| 04 | 祝 卒業・修了                            | 22 | コンテスト表彰             |
| 14 | 卒業生・修了生の進路                         | 25 | 退職者挨拶               |
| 15 | 学生会                                | 27 | 学校だよりはSNS発信へと進化します！ |
| 16 | 磐陽祭2025を開催<br>インキュベーションルーム開設記念イベント | 29 | 新任教職員紹介             |
| 17 | TOPICS                             | 30 | 入学式 校長式辞            |
|    |                                    | 31 | 入学式 代表挨拶            |